

V 特 用 作 物

茶（県南）

1 施肥基準設定の基礎

成木茶園 10a 当たり 1,600 kg の若芽摘みを主体とした生葉収穫目標を基準とする。

2 10a 当たりの施肥量 (kg)

| 施用時期 | 窒素 | リン酸 | カリ |
|-----------------|----|-----|----|
| 秋肥（8月下旬～9月上旬） | 15 | 15 | 8 |
| 春肥（3月上旬） | 16 | 10 | 12 |
| 春肥（追肥）（4月上旬） | 8 | 0 | 0 |
| 夏肥1茶直後（5月下旬） | 13 | 0 | 12 |
| 夏肥2茶直後（7月上旬～中旬） | 8 | 0 | 0 |
| 計 | 60 | 25 | 32 |

3 施肥方法および留意点

- (1) 9月下旬～10月上旬に 500～1,000 kg の敷草または稲わらなどでマルチをする。ただし凍霜害のおそれのある茶園では株元にマルチをする。畦間には一番茶摘採後に行う。
- (2) 茶の好適 pH (H₂O) は 4.5～5.0 で、土壌分析の結果に応じて8月中下旬に苦土石灰等を施用し酸度矯正する。
- (3) 肥料の施用は成園では畦間全面施用とし、幼木園では茶樹の雨落部に2～3回分肥する。

4 幼木園の年次別施肥量 (10a 当たり成分量 kg)

| 年次 | 窒素 | リン酸 | カリ |
|-------|----|-----|----|
| 植付当年 | 16 | 6 | 8 |
| 2 | 32 | 12 | 16 |
| 3 | 48 | 18 | 24 |
| 4 | 60 | 24 | 32 |
| 5（成園） | 60 | 25 | 32 |

茶（県北）

1 施肥基準設定の基礎

成木茶園 10a 当たり 1,400 kg の若芽摘みを主体とした生葉収穫目標を基準とする。

2 10a 当たりの施肥量（kg）

| 施用時期 | 窒素 | リン酸 | カリ |
|--------------|----|-----|----|
| 秋肥（9月上旬） | 15 | 15 | 8 |
| 春肥（3月上旬～中旬） | 16 | 10 | 12 |
| 春肥（追肥）（4月上旬） | 8 | 0 | 0 |
| 夏肥（5月中下旬） | 11 | 0 | 9 |
| 計 | 50 | 25 | 32 |

3 施肥方法および留意点

- （1）9月下旬～10月上旬に 500～1,000 kg の敷草または稲わらなどでマルチをする。ただし凍霜害のおそれのある茶園では株元にマルチをする。畦間には一番茶摘採後に行う。
- （2）茶の好適 pH（H₂O）は 4.5～5.0 で、土壌分析の結果に応じて8月中下旬に苦土石灰等を施用し酸度矯正する。
- （3）肥料の施用は成園では畦間全面施用とし、幼木園では茶樹の雨落部に2～3回分肥する。

4 幼木園の年次別施肥量（10a 当たり成分量 kg）

| 年次 | 窒素 | リン酸 | カリ |
|-------|----|-----|----|
| 植付当年 | 12 | 5 | 6 |
| 2 | 24 | 10 | 13 |
| 3 | 36 | 15 | 19 |
| 4 | 48 | 20 | 26 |
| 5（成園） | 50 | 25 | 32 |

桑（稚蚕用）

1 施肥基準設定の基礎

稚蚕用桑は強健な蚕児を得ることを目的としているため、葉質に重点をおき、壮蚕用桑より窒素をやや控え、リン酸、カリの率を多くする。

2 10a当たりの施肥量（kg）

| 施用時期 | 窒素 | リン酸 | カリ |
|-----------|----|-----|----|
| 春肥（3月上中旬） | 9 | 6 | 6 |
| 夏肥（5月中下旬） | 9 | 6 | 7 |
| 追肥（7月上下旬） | 3 | 3 | 3 |
| 計 | 21 | 15 | 16 |

3 施肥方法および留意点

- (1) 肥料は全面散布し、施用後に浅耕する。
- (2) 有機質資材 1,500kg を冬肥に施す場合は石灰窒素を重量の3%程度施用し、有機質の分解を促進する。
- (3) 石灰施肥量は、桑樹の生育必要量（例：苦土石灰 70kg）と土壤酸度に応じた酸度矯正量を加えた合計量を施用する。一般的には苦土石灰 150kg 程度を冬期間（12～2月）に施用する。なお上記のほか微量要素等も補給する。

桑（壮蚕用）

1 施肥基準設定の基礎

普通桑園では10a当たり収繭量120kg、密植桑園では160kgを基準として設定する。

2 10a当たりの施肥量（kg）

| 区分 | 項目 | 施肥時期 | N | P ₂ O ₅ | K ₂ O |
|------|----|---------------|----|-------------------------------|------------------|
| 普通桑園 | | 春肥（3月上中旬） | 13 | 5 | 5 |
| | | 夏肥（5月下旬～6月上旬） | 13 | 7 | 8 |
| | | 追肥（7月下旬～8月上旬） | 4 | 2 | 2 |
| | | 計 | 30 | 14 | 15 |
| 密植桑園 | | 春肥（3月上中旬） | 16 | 7 | 7 |
| | | 夏肥（5月下旬～6月上旬） | 18 | 7 | 7 |
| | | 追肥（7月下旬～8月上旬） | 6 | 3 | 3 |
| | | 計 | 40 | 17 | 17 |

3 施肥方法および留意点

- (1) 省力化を図るための施肥回数は少ない方が望ましいが、暖地では夏肥に重点をおき、最低3回の分肥が必要である。
- (2) 施肥位置は植付当初において株際に重点をおき、発育に伴って全面散布とする。施肥後は浅耕する。
- (3) 石灰の施用は稚蚕用桑に準ずる。
- (4) 有機物の投入は普通桑園1,500kg、密植桑園2,000kgとし、冬期間に行う。
土中堆肥（普通桑園）の場合は稲わら750kgと石灰窒素30kgを施用する。
- (5) 常習干ばつ地帯（吉野川北岸）においては、夏肥施用後にマルチすると、干害防止にもなり得策である。
- (6) 有機物の施用が困難である場合は冬作緑肥（そらまめ等）による補給が望まれる。

葉たばこ

1 施肥基準設定の基礎

たばこの種類別 10a 当たり収量は、第 1 黄色種 250kg、第 2 黄色種 260 kg、第 3 在来種 244kg を基準として設定する。

2 10a 当たりの施肥量 (kg)

| 種 類 | 地 域 | 窒 素 | リン酸 | カ リ |
|-----------|-----|---------|---------|---------|
| 第 1 黄 色 種 | 南 部 | 6 ～ 8 | 11 ～ 15 | 15 ～ 20 |
| 第 2 黄 色 種 | 東 部 | 6 ～ 8 | 11 ～ 15 | 15 ～ 20 |
| | 西 部 | 8 ～ 10 | 14 ～ 18 | 20 ～ 25 |
| 第 3 在 来 種 | 西 部 | 15 ～ 17 | 10 ～ 11 | 25 ～ 28 |

3 整地及び施肥方法

- (1) 整地は排水管理を基本とし、特に水田産地は高畦とする。
- (2) 堆肥類は良質完熟のもので、10a 当たり黄色種 1,000kg、在来種 1,500kg 以上を施用する。
- (3) 土壌の酸度は pH5.5 ～ 6.5 となるよう必要に応じ酸度矯正を実施する。
- (4) 施肥は植え付け 3 週間前までに全量条状 (条肥) 施用する。

藍

1 施肥基準設定の基礎

3月上旬は種，4月下旬～5月上旬定植で，風乾葉収量10a当たり300kgの収穫目標の基準とする。

2 10a当たりの施肥量 (kg)

| 区 分 | 施 用 時 期 | 施肥成分量(kg/10a) | | |
|-----|------------|---------------|-----|-----|
| | | 窒 素 | リン酸 | カ リ |
| 基 肥 | 定 植 前 | 1 0 | 1 0 | 1 0 |
| | 定植 30 日後 | 1 5 | 1 5 | 1 5 |
| | 1 番刈 10 日前 | 1 0 | — | — |
| 追 肥 | 1 番刈 7 日後 | 1 0 | 1 0 | 1 0 |
| | 2 番刈 10 日前 | 1 0 | — | — |
| 計 | | 5 5 | 3 5 | 3 5 |

3 施肥方法および留意点

- (1) 堆肥 2,000 kgを定植 1 ヶ月前までに施用する。
- (2) 定植 10 日前までに苦土石灰 100 ～ 200 kg，基肥を施用する。
- (3) 一般的に育苗床への基肥は不要である。痩せ地の場合は 3 要素を少量施用する。